

《JAやまがた おいしさ直売所紅の蔵店開設プロジェクト》

市町村	山形市	対象地域	山形市・上山市・中山町・山辺町	分野	直接販売
実施主体名	山形農業協同組合	代表者氏名	代表理事専務長 澤 豊	主たる事務所の住所・連絡先	山形市旅籠町1-12-35 TEL023-641-3121
実施主体構成	山形農業協同組合				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	5億5500万円（1億8000万円）					
	独自の目標項目	農産物直売所生産農家の拡大 390名→500名（110名）					
各年次目標成果	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）	
	産出額	3億7500万円	4億3000万円	4億9100万円	5億1600万円	5億3450万円	5億5500万円
	独自の 目標項目	農産物直売所生産農 家会員の拡大	390名	420名	450名	480名	500名
プロジェクト 概要	◎実施方針	JAやまがたでは、地域の消費者へ新鮮・安全・安心な地場農産物及び農産加工品を直接供給する「地産地消」の拠点としてファーマーズ・マーケットづくりに取り組み、平成15年に「おいしさ直売所南館店」・平成16年に「おいしさ直売所鈴川店」を開設、地域の消費者に愛されるファーマーズ・マーケットとして順調に売上を伸ばし、組合員の皆様の農業所得アップを図ってまいりました。さらなる組合員の農業所得アップと生きがいづくりを実現するため、山形市及び「山形まるごと館 紅の蔵」とタイアップし中心市街地にアンテナショップの機能を持ったファーマーズ・マーケットを設置し、山形の農産物の魅力について、消費者ニーズを的確に捉えながら従来の産直側からだけでなく紅の蔵の飲食店側からもあわせて情報を発信するとともに、観光客や市民の需要に対応いたします。					
	◎産出額の増大	ファーマーズ・マーケットは少量でも出荷して所得できるのが特徴です。大規模農家は勿論のこと、高齢者、女性、新規就農者など誰もが、その体力や農業技術に応じて参画することができ販売額の増加が見込まれます。					
	◎雇用の創出	農産物の販売額の増加が見込まれるとともに雇用の創出が見込まれます。ファーマーズ・マーケットの開設により雇用の増加は年間7名（常時雇用）を見込んでいます。 （240日×7人＝1、680人／日） また、アグリビジネス人材育成事業委託事業プロポザール審査会の結果、当JAの企画提案が選定されました。この内容については、農産物直売所の拡大と一層のサービス向上を進めるためには優秀な販売員を育成することが重要であることから新設・増設に伴い求められる取扱品目に対する適切な説明や販売業務への対応等、直接実務の技術を実践的かつ効果的に習得する人材育成と雇用創出を行う事業内容となっております。					

○創意工夫

○消費者への情報発信

旬の野菜に関する情報や料理方法について、販売員や生産者が直接店舗で説明したり、店舗に掲示するなどして、消費者への情報提供を行うとともに、地域の伝統や文化を継承してまいります。（地場産や旬へのこだわりによる付加価値のついた価格を設定します。）

○消費者との交流の活性化の展開

生産者農場での農業体験や収穫体験・料理教室などを通じて、消費者、地域住民とファーマーズ・マーケットや生産者との交流を図ります。

具体的には、食農教育として（わんぱくアグリスクール）・（畑の学校）を開設、高齢者が教えることによる生きがいがづくり、子育て支援（一升餅背負いの集い）、環境保全活動、市民農園、組合員の農産加工活動や、JA事業とJAファーマーズ・マーケットを組み合わせることにより、地域農業振興や地域活性化に向けた取組みを実施いたします。また、消費者と生産者の交流を目的にわらび採りツアーを実施いたします。

○食材の供給

四季折々の多彩な地場農産物や農産加工品が集まるJAファーマーズ・マーケットでは、周辺にある幼稚園、福祉施設、ホテル、飲食店向けの食材供給をいたします。

○農商工連携の実践

「山形まるごと館 紅の蔵」に併設することにより商工業者であるカフェ部門、郷土料理部門、物販部門と連携し、山形らしい食や商品を求める紅の蔵の来館者に対し、互いに連携先の情報発信し合うことにより、従来とは異なった形態での農産物の情報発信を行う。

○うまいもの産直ラジオの活用

荒井幸博のうまいもの産直ラジオ（毎週日曜日午前11：00～午前11：30）を活用し、旬の農産物の情報や農産物直売所の情報をお届けします。

○農産物即売会の実施によるPR

山形県庁・JR山形駅・仙台勾当台公園（山形ふれあいマーケット）で、旬の農産物即売会を実施し、山形の魅力ある農産物をアピールし、ブランド化を進めてまいります。

- ・山形県庁で毎月第2・第4水曜日に農産物直売所の出前即売会を実施いたします。
- ・JR山形駅で毎月第3日曜日に農産物直売所の出前即売会を実施いたします。
- ・仙台勾当台公園にて5月～11月に毎月2回年11回の出前即売会を実施いたします。

○米粉製粉機の活用

地元産米の消費拡大のため今年3月に米製粉機を導入、地元産米粉の販売をはじめ、個人向けの委託製粉も行い消費者の料理講習会を開催いたします。

JA女性部によるメニューの開発や直売所での試食会を開くなどして地元産米の消費拡大を図ってまいります。

	○創意工夫 (つづき)	<p>○加工品の開発 山形市に関係するワークショップを活用しながら、消費者ニーズを基本とした地元農産物の加工品開発(特に米粉・さくらんぼ・ラフランス・紅花を使った商品開発(ソフトクリーム等))を進めてまいります。</p> <p>○ネットワークの構築 JAやまがたの農産物(山形市、上山市、中山町、山辺町)2市2町合併農協の特徴を最大限に生かし特徴ある農産物販売を構築してまいります。南館店、鈴川店、紅の蔵店の情報の共有化を図ります。</p>
	○実現性	<p>JAがファーマーズ・マーケットを設置、運営して、これを拠点に、農家組合員が農産物の生産、加工、販売に取り組むことによって、安心、安全、新鮮な地場農産物や加工品を求める地元の消費者の強力な支持を得ることができます。それが農家の営農意欲を促し、さらには地域農業の振興につながることによって、高齢化時代に対応した農業の多様な担い手の確保・育成にも貢献いたします。</p> <p>また、山形市の中心市街地にファーマーズ・マーケットを設置することによって、飲食店、ホテル等に地場産品の消費を促し、観光客や市民へ山形の農産物の魅力を発信することにより、山形の伝統野菜の拡大やセレクション品の拡大が図られます。</p>
	○地域への波及効果	<p>ファーマーズ・マーケットは地域で生産された農産物や農産加工品を地域で消費する「地産地消の拠点」であり、また、食卓と生産現場の距離を縮める「食と農を結ぶ拠点」であります。さらに、消費者に直接働きかけ、消費者と生産者、地域住民とJAを結ぶ「交流の拠点」であるとともに、地域の食と農に関する情報を発信し、JAの社会貢献を地域にアピールする「情報発信の拠点」でもあります。</p>
	○その他	<p>山形市の商工行政では中心市街地の活性化が課題となっていますが、この中心市街地に農産物直売所を設置することにより賑わいを作り出し農産物直売所及び中心市街地の活性化を進めてまいります。</p>

事業計画		実施年度(平成22年度)	実施年度(平成 年度)
	事業内容	農産物直売所の開設	